



ハルキの事務所棟

飛び出した庇を支える平行弦トラスが特徴的な事務所棟

【函館】2023年度北海道赤レンガ建築賞奨励賞に輝いたハルキ（本社・森町）の事務所棟。道南産材をふんだんに用いた温かみのあるデザインが高い評価を受けた。春木真一社長は、木材の良さを伝えるためショールームなどとしての使用を検討するとしている。森町姫川11の13に2月28日に完成し、規模はW造、2階、延べ476平方メートルとなっている。設計は主に高田傑建築都市研究室が手掛け、東京電機大学未来科学部建築学科、笹谷研究室と宮原一級建築士事務所が協力。施工

道南産材ふんだんに使用

輝く 道赤レンガ建築賞奨励賞

は紀の國建設が担った。1階に事務室や応接室、CAD室、2階に会議室2室、キッチン、休憩スペース、木材加工部屋、木育などで使うワークスペースを置く。壁や柱から机、階段の手すり、コップホルダーに至るまで町内産を中心に自社で加工した道南産材を100%使用。社員や来訪者に温かみと統一感のある空間を提供している。

屋根などには、町や町内業者で研究開発している平行弦トラス（通称・森トラス）を多く採り入れた。上弦と下弦にトドマツ、斜めの部分にスギ、強度が必要な部分にカラマツといった3種類の町内産材木材を使用。デザインや耐久性、芳香に優れているほか、部品点数を少なくして容易に組み立て、維持ができる。11月に道が受賞を発表。外部で張り出した庇（ひさし）を支える地元産材の平行弦トラス、木の質感を生かして眺望の利くオフィス空間、地元産材との協働を理由に挙げた。春木社長は、道南産材を多く採り入れた建物への評価に感謝。その上で「ワークショッポの開催場所やショールームとして使いたい。木材利用が広まり、環境問題解決の一助になれば」と期待する。